

基調講演

テーマ： 住みよいまちづくりと都市の活性化のための
地下空間利用と技術

講師： 岡山大学 教授 花村 哲也 (工学博士)



略歴

1943年	京都府京都市生まれ
1966年	京都大学工学部土木工学科卒
1968年	京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修士修了
1968年	大成建設株式会社入社～2000年まで在職
1973年	社命留学・カリフォルニア大学バークレー校 MS 取得
2000年	岡山大学環境理工学部環境デザイン工学科教授
2005年	岡山大学大学院環境学研究科社会基盤環境学専攻教授

研究活動

- ・石油地下備蓄技術の開発と建設（菊間石油地下備蓄建設共同企業体副所長）
- ・土木施工技術・建設マネジメント技術研究（土木学会土木施工研究委員会運営小委員長、土木工学ハンドブック編集委員会第55編主査）
- ・地下空間開発研究（通産省大型研究開発プロジェクト「ジオドーム」の研究開発リーダー、エンジニアリング振興協会・地下開発利用研究センターのガイドブック研究会会長ほか）
- ・土木工学国際化研究（アメリカ土木学会日本支部長、土木学会国際委員会副委員長ほか）
- ・国際地下空間開発研究（国際トンネル地下空間協会・地下空間委員会委員、国連主催ワークショップ委員ほか国際会議基調講演多数）

講演内容

都市を対象にすると、地下空間の基本的な目的は、①都市の混雑、特に交通混雑の緩和、②都市の安全、快適、便利空間の創出、③良質な水や大気環境の保全、④都市内災害の軽減にある。都市の活性化のためには、郊外を主としたゆったりとした住宅地と活気ある都心部の組み合わせが必要である。自動車は便利な乗り物であるが、通勤のような大量交通輸送には適していない。鉄道を主体とする大量輸送機関が必要になる。都心部では地価が高く、すでに多様に使われている。さらに活性化するには3次元的空間利用が必要である。駅の地下や高架の横断路、地下鉄、地下街、道路の地下横断、高架と既存鉄道網との一体化が必要となる。地下街、地下駐車場は単独地下街としてだけでなく地下ネットワークが便利で快適な空間を生み出す。下水道の普及が良質な水環境をつくり、道路の地下化による大気環境保全が東京、ボストン、シドニー、カイロ他で始まった。地下に洪水を一時的にためる洪水調整池、放流する放水路は、東京や大阪では今やなくてはならないものになっている。大津でも始まった。地下は、地震にも強い。岡山市は平面的に広い都市で、住みよい街である。しかし中心部は求心力を欠き、活気に劣る。鉄道の交通要所の利点も生かしていない。岡山市をモデルとして、地下空間の活用による都市の活性化を考えてみたい。